



徳島阿波おどり空港初、空港内作業車両で バイオディーゼル燃料「B100燃料」の導入を開始

JALは、CO2排出量削減への取り組みの一環として、2024年5月16日より、徳島阿波おどり空港配備の空港内作業車両であるトーイングトラクター(*)に、バイオディーゼル燃料濃度100%の「B100燃料」の使用を開始します。

(*)空港制限区域内にて航空貨物やお客さまの手荷物の運送用コンテナを牽引する車両

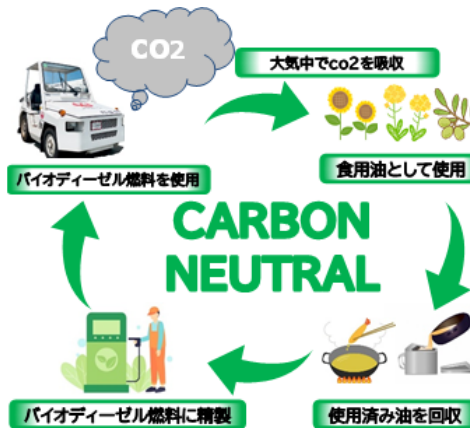
「バイオディーゼル燃料」は植物由来の廃食用油から精製しており、原料の植物が成長過程でCO2を吸収していることから、ライフサイクルでのCO2排出量を実質ゼロにすることができます。

家庭や地域の飲食店などで排出される植物油などを精製して地域で使用することから、地産地消の循環型エネルギーであり、軽油と比べて1リットル当たり2.62kgのCO2排出量削減の効果が見込めます。

なお、実施にあたっては、株式会社ダイキアクシス・サステナブル・パワー（愛媛県松山市）が「B100燃料」の製造・供給を、シェル徳発株式会社(徳島県徳島市)が給油を担当します。



トーイングトラクター



バイオディーゼル燃料 (B100燃料)

JALはこれからも、循環型エネルギーの利用拡大を促進し、「CO2排出実質ゼロ」実現に向けて持続可能なエネルギー利用によるCO2排出削減に取り組んでまいります。

【運用開始日】 2024年5月16日(木)～

【対象空港】 徳島阿波おどり空港(徳島県板野郡松茂町豊久字朝日野16番地2)

【対象車両】 徳島阿波おどり空港配備 JALトーイングトラクター 2台

【実験内容】 高純度バイオディーゼル燃料濃度100%の「B100燃料」をトーイングトラクターに使用

以上

